

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同研究班」 研究報告書

令和7年4月4日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域の文化・言語		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	安達大輔	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
	2	野町素己	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授
班員	氏名		所属機関・職
	菊間史織		尚美学園大学兼任講師
	専門とする研究分野		
	音楽学		
研究テーマ			
作曲家プロコフィエフの来日と銀の時代の東方観			

研究成果の概要

文化に関しては、日露戦争～ロシア革命の時代のロシア・日本相互の文化的影響関係の一端を明らかにするべく、作曲家セルゲイ・プロコフィエフの来日や、彼の東方観に影響を及ぼしたロシア銀の時代の象徴主義詩人、特にコンスタンティン・バリモントに関する研究を開始した。プロコフィエフの作品を概観すると、古代メソポタミアやマレーシアなどの東方の主題、ロシア人のアジア人としてのアイデンティティを打ち出す「スキタイ」という主題、あるいは「日本音楽」的とプロコフィエフ自身が日記に記述している特徴や、日本で書かれた素材が取り入れられた作品が、1910～20年代に少なからず存在している。「東方」に関係するこうした主題が作曲で表現されるのは、バリモントやアレクサンドル・ベヌアといった銀の時代の芸術家たちと交流をもった時期に当たり、両者の関係を詳しく紐解くことが研究目的であった。

その第一段階として菊間が2024年9月に『ユーラシア研究』への寄稿を行った。来日して帝国劇場での演奏を行ったプロコフィエフの興行や彼自身の考え方については、現在別の論文を準備中である。2025年3月11日には北海道スラブ研究会との共催（ハイブリッド開催）で、菊間が講演「セルゲイ・プロコフィエフの音楽—東方に縁のある素材たち」を行った。3月には菊間がコロンビア大学のプロコフィエフ・アーカイヴにて自筆譜や手紙の資料調査を行い、それまでの研究成果を補足するとともに、研究の今後の発展への見通しを得ることができた。

菊間はかねてから交流のあるプリンストン大学のサイモン・モリソン教授と意見交換を重ね、3月10日には、哲学者・音楽家ラファエル・フォン・ケーベルに関するモリソン教授の講演会「ロシアの先生、日本の生徒／日本の先生、ロシアの生徒」をオンラインで開催した。その結果、帝国主義的、植民地主義的な東方進出あるいはロシア革命後の亡命とは異なる、芸術家たちの

個々の来日の事情や考え方、日本人とのかかわり方、仕事の仕方などが明らかになった。そのなかで、ケーベルやチャイコフスキー、プロコフィエフのような国際的な考え方や創作傾向をもったロシア人芸術家にとって「故郷」はいかなるものであったかという問題が浮かび上がってきた。また、研究者側のある種のナショナリズム的動機から解放されたジャポニズム研究が必要であるという点で、教授と合意することができた。以上によって今後研究すべき興味深い視座が見つかるという成果があった。

安達は菊間やモリソン教授との共同研究を踏まえ、2月21日に大阪大学で開催されたヨコタ村上孝之准教授の講義「近代西洋音楽理論の脱構築に向けて—(ロシア)文学と音楽の関係から考える」、および3月15日に上智大学で開催された村田真一教授の講義「外国語と演劇と：芸術的媒介性の饗宴」に参加するなど、理論的な面から検討を行った。

言語は、2024年7月4日にロマ語研究の世界的大家であるエレナ・マルシャコワ氏とベセリン・ポポフ氏を招聘したマイノリティ言語の復興戦略セミナー、12月1日には国際スラビスト会議スラブ・マイクロ言語部会の年次集会(7か国より11人参加)、12月18日～19日には国際シンポジウム「スラブ世界における言語・ネイション・標準化：その類似と相違」(11か国より17人参加)を組織し、戦争下の言語状況も含めた言語危機と言語復興やアイデンティティの多様性を論じた。

主な発表論文等(雑誌論文、学会発表、図書等) ※謝辞の有無について明記願います。

〈雑誌論文〉

菊間史織「プロコフィエフの訪日前：銀の時代の芸術家たちと共鳴する東方へのまなざし」『ユーラシア研究』2025年、第69号(印刷中、謝辞無し)

Nomachi, Motoki “How was the Serbian Language Studied during the Tito-Stalin Split in the USSR? Evidence from the Archive of Samuil Borisovič Bernštejn,” *Balkanistica* 39-1 (accepted for publication)

〈口頭報告〉

菊間史織「セルゲイ・プロコフィエフの音楽—東方に縁のある素材たち」、北海道スラブ研究会、2025年3月11日、於北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター(オンラインとのハイブリッド開催)

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト(応募中の研究プロジェクトを含む)

無し

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。